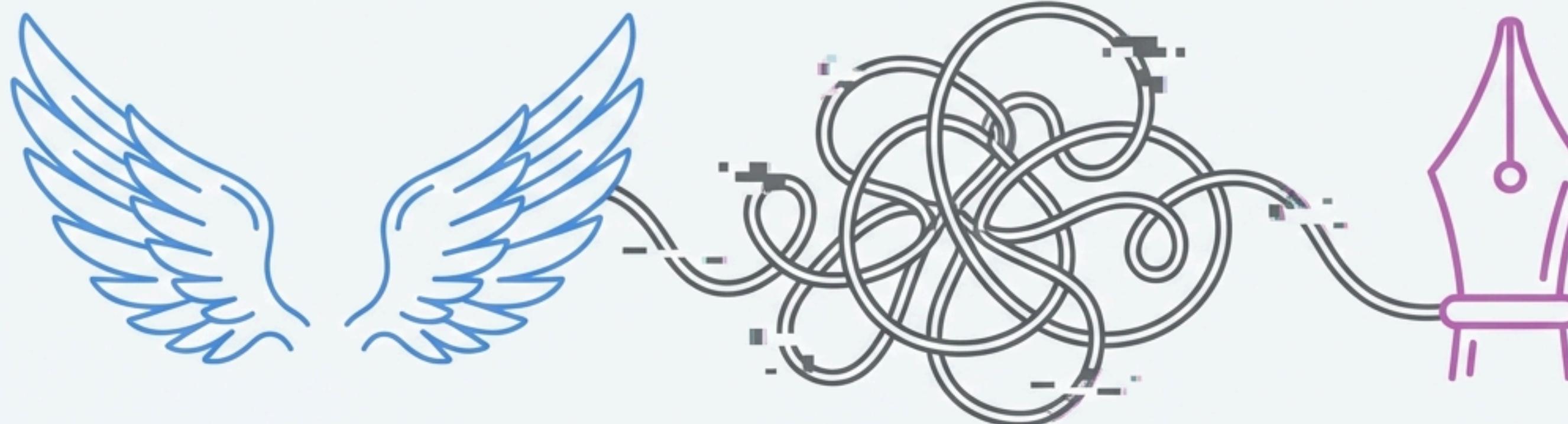




伝説の神回、完全解剖

天音かなた x rurudo先生

配信事故（てえてえ）インシデントレポート



配信終了の挨拶から始まった、予測不能な一夜の全記録。

['00:00'] 全ては、穏やかな エンディングから始まった

配信は通常通り、スパチャ読みに続く雑談で締めくくられようとしていた。

深夜0時を回り、天音かなたは視聴者に感謝を伝え、いつもの挨拶で配信を終える。

この時点では、誰もが平穏な夜を確信していた。

>「と、ということで皆さん、今日ありがとうございました。…それでは、おつかなたでした。バイバイ！」



[00:55] 静寂を破る、一本の電話



配信終了の挨拶の直後、Discordの着信音が鳴り響く。
相手は、彼女の「ママ」であり親友でもあるイラストレーター、rurudo先生。
予期せぬ出来事に、天音かなたも視聴者も困惑する。

かなた：「ああ、もしもし？」

rurudo：「お疲れ、お疲れ」

かなた：「ちょっと待ってね、今配信してるんだけど…」
rurudo：「え、今配信！？この声乗ってんですか！？」

[`02:12`] なぜ電話はかかってきたのか？



配信に乗っていると知りながらも、通話を続けるrurudo先生。電話をかけた動機能は「寂しくなった」から。かなたがチャットを無視していると思い込み、配信が終わるのを待っていたという。このすれ違いが、伝説説の夜の引き金となつた。

- > 「え、なんか、一つ話したくて。寂しくなった。最近あんま話してない...」
- > 「チャットの配信待ってたら...無視してると思って」

[`05:25`] 100円の即興ライブ

場の空気を読んだのか、読んでいないのか。rurudo先生は突如「1曲100円」で歌うことを提案。リクエストに応え、ほろ酔い気分で『恋愛サーチュレーション』を披露する。予測不能な展開はさらに加速していく。

> rurudo：「何歌ってほしい？」

> かなた：「え、マジ？ 歌ってくれんの？」

> rurudo：「100円で歌ってあげる」

> かなた：「うわあ、金取るんか！」



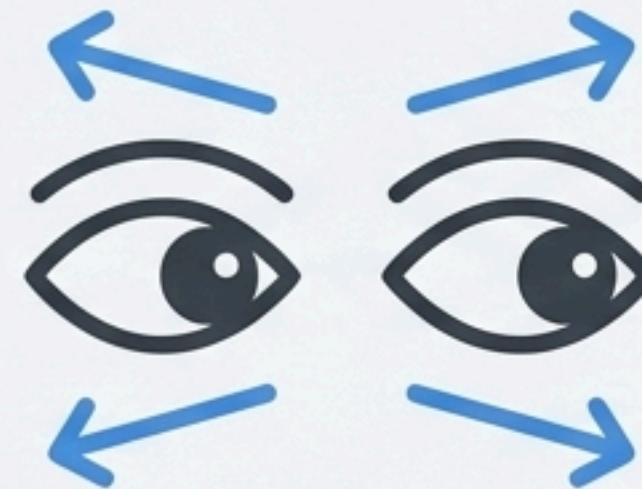
[`07:45`] 核心情報：Tバック事件の暴露



会話は唐突に、その日に起きた出来事の暴露へと移る。rurudo先生が天音かなたに自身のTバックを見せたという衝撃の事実が明かされる。このエピソードは、二人のプライベートでの関係性の近さを物語っている。

- > rurudo：「パンツも見したもんね。今日パンツ可愛いTバッグだった」
- > かなた：「そうだよ！急にTバッグを見せられるこっちの身にもなって考えたことあんの！？」

[`08:10`] 反応分析：「マジで童貞みたいな反応」



目が泳いでる



平成を装う

rurudo先生は、Tバックを見せられたかなたの反応を詳細に描写する。「冷静を保ってるけどめちゃくちゃ目が泳いでて」「平成を装って」と指摘。完璧に演じきったと思っていたかなただが、その動搖は完全に見抜かれていた。

「かなたそのさ、反応マジで童貞みたいな反応する。...冷静を保ってるけどめちゃくちゃ目が泳いでて。せっかく全てを装つて完璧に演じ切ったと思ったのに...」

[`10:20'] 関係性の核心：「私のこと好き？」

混沌とした会話の中、rurudo先生は核心を突く質問を投げかける。この問い合わせと、それに対する二人の応答は、この配信の「てえてえ」モーメントの頂点と言える。

rurudo: 「かなた、私のこと好き？」



かなた: 「え、好きだよ」



rurudo: 「私は、まあまあまあかな」



かなた: 「ふざけんなおめえ！ここは両想いだろ！」



[`10:55`] 正論パンチ：「友達に順位とかつれない」

「まあまあ」という返答に「僕はゴミみてえになったじゃねえか！」と嘆くかなた。しかし、rurudo先生は酔いながらも完璧なカウンターを繰り出す。この一言は、彼女たちの関係性の深さと哲学を象徴している。

かなた：「僕の上に何人いるんですか？」

rurudo：「私、友達に順位とかつれない」

かなた：「うわっ、急にゴミになってる...」

くそお、負けたな...」



[`11:25`] クライマックス：ゲロタイム宣言

感動的なやり取りの直後、
事態は誰も予測しなかつ
たた方向へ。rurudo
先生が突如、嘔吐を
することを宣言。



宣言。「繋いでて」という
無茶な要求を残し、
し、彼女は席を外す。
配信は前代未聞の
事態に突入する。

>「ちょっとゲロのやついですか？ゲドス。…繋いでおいて」

[`11:45`] 放送事故現場：残された天使の独白



視聴者と共に、一人取り残された天音かなた。彼女は状況を説明し、必死に場を繋ぐ。

「でも僕は被害者なんです！」と叫びながらも、この状況がいかに異常であるかを語り、視聴者の困惑を代弁した。

- ▶ 「すいません、なんかあの、ルルニャスのね、数少ない配信をね、聞きに来た’なんか急にうるせえ天使登場してすいません。でも、でもでも僕は被害者なんです！いきなりかかってきたんです！」

【'13:30'】凱旋：「プロゲボラーなんで」

rurudo先生が帰還。そして放った一言が、彼女を伝説にした。「もうプロゲボラーなんで、一瞬で済みました」。このパワーワードは、この配信を象徴する名言としてファンの記憶に刻まれることになる。

>「どうでした？もうプロゲボラーなんで。一瞬で済みました。」

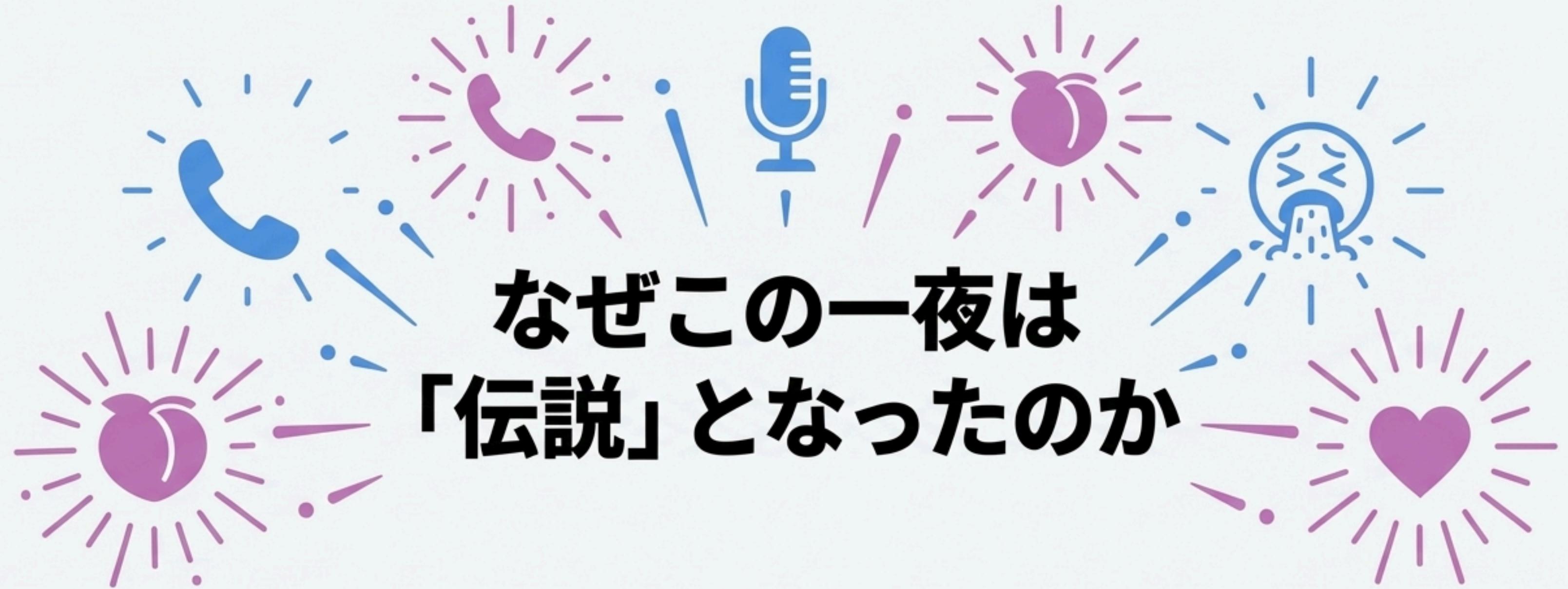


[`14:10`] 混沌の果てに：「一緒に寝て」



全ての混沌が過ぎ去った後、rurudo先生の本音が再びこぼれる。「一人で寝たくない」。マーライオンと化した後でも、求めるのは親友の温もりだった。この一言が、破天荒な夜を心温まる物語として完結させる。

> 「寝たくない。やだ、一人で寝たくない。…うち来て、一緒に寝て。もうタクシーで来て」



なぜこの一夜は 「伝説」となったのか

→ **予測不能のドキュメンタリー**
配信の筋書きを完全に破壊する、
リアルタイムのハプニングが連
続した。

→ **究極の信頼関係**
放送事故寸前の状況でも、互
いを信じ、場を成立させた二
人の絆。

→ **本音と「てえてえ」の奔流**
酔いも手伝い、普段は見せない
弱さや愛情がフィルタリングさ
れずに表出された。

→ **すべてを受け入れるファン**
このカオスな状況を「面白い」
と「尊い」に変換し、伝説化
させた聴者的存在。

「友達に、順位とかつけない」

混沌の先に見えた、二人の友情の形。